

月刊

地域保健



●座談会

福島の保健師は今—南相馬市を中心に

●フロントランナー

宮本順子さん 《霧島市保健福祉部 部長》

●ピープル

米山けい子さん 《NPO法人 フードバンク山梨 理事長》



宮本順子さん

● 鹿児島県霧島市役所 保健福祉部 部長



人には優しく。このまちの保健師は自分だけと思つて
職種の垣根なく保健と福祉を一体化。広い視野で政策を実現

鹿児島県霧島市

この日の霧島市は晴天で、群青色の錦江湾がきらきらと輝いて美しく、煙を噴き出す桜島もきれいに見えた。また反対側を見渡すと、贅沢なことに、本龍馬とお龍が新婚旅行で登った場所としても有名である。



霧島市の面積は約604平方キロ、県推計人口は12万6805人、高齢化率は22・1%、合計特殊出生率は1・59と県内1位を誇っている（2011年〈平成23〉年4月1日現在）。2005

（平成17）年に、国分市、溝辺町、横川町、牧園町、霧島町、隼人町、福山町の1市6町が合併し、霧島市が生まれた。霧島市役所は旧国分市の中央にある。この地域はテクノボリスの指定を受け、多くのハイテク産業が軒を連ねている。

保健師として 地域の健康づくりに邁進

宮本さんは隣県の宮崎県のご出身だそうだ。1976（昭和51）年に鹿児島大学医学部附属保健師学校（現鹿児島大学医学部保健学科）を卒業し、隼人町役場に就職した。看護学校のころ、毎日病院を訪れる慢性疾患の患者さんを見ながら、「早いうちから予防をしていれば、悪くならずに済んだのに……」と感じていた。当時の人々は、いまほど健康に関心がなく、生活習慣病の知識は浸透していなかった。地域の人たちに病気の予防や健康の大切さ



霧島市福山町の黒酢の壺畠から望む桜島。南向きの斜面に位置したこの辺りは、年間を通して18～20℃と暖かく、黒酢を造るのに適した環境だという



西郷公園にある西郷隆盛像。日本一の大きさの人物像だそうだ

● 南相馬市役所
大石万里子さん



● 住民とともに活動する保健師の会、
東京医療保健大学
渡會睦子さん

● 南相馬市役所
鷲原ひとみさん



● 福島県相双保健福祉事務所
草野文子さん

● 南相馬市役所
岡崎千晴さん



● 福島県相双保健福祉事務所
三瓶弘子さん

座談会

福島の保健師は今

南相馬市を中心に

東京電力福島第一原子力発電所の事故で原発周辺の自治体は大きな被害を受けた。役場機能の移転、医療・福祉施設の減少に加え、放射線による健康不安が続き、多くの課題を抱えながらの生活を余儀なくされている。

今月の座談会は南相馬市を会場にして、市の保健師と栄養士、福島県相双保健福祉事務所の保健師にお集まりいただき、発災から今日までの出来事と、今ある課題について語っていただいた。司会は原発周辺の市町村で保健師にガラスバッジを配布する活動を展開している「住民とともに活動する保健師の会」の渡會睦子さん。



訪問のコツもつかんで いよいよ4年目

「住民の一番身近な存在に」と願いつつ

つかはらまき
塙原真紀さん

●尼崎市健康福祉局保健センター

◀クールさと人懐っこさを併せ持つ塙原さん。昔からある歌手に似ているとよく言われているそうな……



◎文・写真
西内義雄
(医療・保健ジャーナリスト)

大阪駅からJRでわずか2駅。時間にして10分もかからず到着したのはお隣、兵庫県の尼崎駅。駅前は北と南で随分様子が違っている。北は大きなショッピングセンターにタワーマンションが目立ち、華やかな雰囲気。南側は落ち着いた地方の駅といった風情で、すぐ近くに大企業の工場もある。企業城下町、転出入の多い町などのキーワードを思い浮かべながら、尼崎市小田支所に向かった。

鞄帯断裂で 長いリハビリを経験

ひよこさんの名は塙原真紀さん。西宮市生まれの25歳。関西人独特の話術のせいだろう、変な構えがなく会話をしやすい。さすが生粋の関西人は違うなあと感心していたら、「これでも転勤族なので各地を転々としていたんですよ。西宮に神戸、桶川(埼玉)、神戸と家族で引っ越しを繰り

返していました。その後父には単身赴任をしてもらつたので、大学で私が仙台に行つたくらいでしょか。今は実家の神戸から尼崎に通っています」

子どものころに憧れていたのはお花屋さんか幼稚園の先生。それが医療職への興味に移り変わったきっかけは中学生時代の大きなかげがだつた。

「バスケット部に入つていて、中2のとき膝の鞄帯を切つてしましました。1ヵ月半ほどの入院と手術を経験して、リハビリに1年半くらいかかりました。その際、先生や看護師さん、理学療法士さんなど、たくさんの方によくしてもらつたことが興味につながつたと思います」

今でこそ冷静に話すも、当時はつと5だつた体育の成績が2や3になり、有り余る体力と思うようになつた。しかし、このままでは車椅子で暴走したことがあつたとか。



▲小さなころはピアノも習い、発表会も経験